

要 旨

1 作成の背景

デザインは、現代社会において、制度、関係性、社会システムの構築など広い文脈で用いられているが、災害復興、地域課題、環境変動、社会的包摂など、現代社会の具体的な課題において、公共的価値を創出する社会的実践として定義されるデザインの知と技術への期待が高まっている。一方、デザインに対する理解や概念が分野や個人において異なると同時にその差に対する共通認識もあるとはいえない。特に都市・地域のインフラや環境を構築する公共分野ではデザインの重要性が必ずしも浸透しておらず、また学術的にも中心課題となっていない。こうした状況を踏まえ土木工学・建築学委員会では第24期からデザインを直接的なテーマとする分科会を設置し、幅広い議論、及び公開シンポジウムを行ってきた。本報告ではこれまでの分科会の議論を、現時点の総括として第26期分科会による報告として取りまとめ、今後、デザインの社会的重要性の理解を深め、その実践に向けた方策を提示するための多元的な議論の出発点とすることとした。

2 現状及び問題点

現在、デザインは、色や形の調整、必ずしも必須とは考えられない価値の付与、あるいは主観的で評価が定まりにくいものとして限定的に捉えられる場合があり、総合的・共創的な課題解決のためのアプローチとしての理解は社会に十分に浸透していない。その結果、デザインとその実践を通じて市民生活を支える質の高い公共的な環境を実現する機会を失っている。さらに、こうした社会課題に対する認識の程度にも大きな差がみられる。

3 報告の内容

本報告は全4章から成り、第1章「はじめに」で本報告作成の経緯と日本学術会議における位置付け、目的を述べた上で、以下の課題認識と今後に向けた提案をまとめている。

(1) 『デザイン』という語による概念・捉え方の現状と課題 (第2章)

デザインという語がどのように使われ、課題対象とされてきたかを概観し、この言葉の持つ多重性を踏まえつつ、概念の整理を示した。その上で、デザインをめぐる概念の多重性と一面的理解による問題点を、行政、専門家が直面している課題、市民生活の質の保障、教育・人材育成の各視点から整理した。

(2) 「デザイン」の社会的理解を広げるアプローチの例 (第3章)

上記の問題意識を踏まえ、本報告では、デザインの社会的重要性への理解を深め、その浸透を図るために有益と考えられる視点と事例を整理した。整理にあたっては、公開シンポジウムでの議論を基礎とした。具体的には、①歴史からみたデザイン概念の再認識と社会的理解の促進、②公共領域におけるデザインの質を支える制度的基盤の形成、③公共プロジェクトの制度・調達・評価の改善、④学術と実務をつなぐプラットフォームの確立、⑤教育と人材育成の強化、の5点にまとめた。

第4章「おわりに」で、本分科会の議論で得られた成果を振り返り、今後の展望を述べた。